

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ありんくりん町田		
○保護者評価実施期間	2026年5月1日		～ 2026年6月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年5月1日		～ 2026年5月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年6月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	18 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	将来自立できるように、一人で暮らして行けるように、週一回は必ず、食育(調理から、後片付け迄)とコミュニケーショントレーニングを行っています。それ以外にも、音楽(パト)を組んだり、部活動の感じで、〇〇部を作ったりして、小集団での活動を中心に、将来の自立を期しています。	地域のイベントに参加できるまでのレベルに達して来たので、人前で披露できるような機会を増やして、参加者がそれぞれ自信を持てるような活動をしていきたいです。成功体験を積み重ね、自信が持てるような環境づくりをと思っています。表舞台も、裏方も。
2	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	集団療育、個別療育、学習補助、リト対策、レポート対策、など利用者が自分の意思で選択できるような環境を整えて、日々の療育に励んでいます。促すことは有りますが、最終決定は個人の考えを尊重して決めています。わがままと、紙一重のところも有りますが、まずは自分が決めてことからスタートさせている。	中高生が多いデイなので、卒業後の将来を見据えたプログラムを中心に展開して行きたいと思っています。考える力、優先順位、社会性、一般、社会常識など、卒業までに何を身に付けておいた方が良いのか?など一緒に考えながら、将来に向けて部活的なノリを通じて成長していきたいと思っています。
3	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	正直スタッフの人員はまだ十分な体制とは、言えませんが、スタッフ全員が、発達関連の知識は豊富で、ベテランが多く、多彩な療育を行うことが可能です。個別対応から、集団、学校訪問、保護者対応まで、全員が共通認識を持ちながら行動できています。	現在でも、児発管の資格を持つスタッフが4名、常勤として勤務しています。経験、知識は自負していますが、若いスタッフの人数を増やして行きたいと思っています。人員数、年齢、経験、などなど偏ることなく、いろいろなスタッフと関わり継承していきたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	昨年の9月に開所して、まだ1年たっていないので、まずは、内部充実を力を入れて来ました。もちろん第三者委員会の重要性は理解しております。利用者、スタッフも大分慣れては来ているので、今後は地域交流や、外部に向けての活動も進めて行きたいと思っています。	学校、病院、就労施設、デイのOBや、福祉関連の関係者等に理解、協力を頼んで、今年中には賛同者として小さな会合を持って行きたいと思っています。日々の療育でなかなか手が回らない状況ですが、スタッフの理解も得て、内外並行で進めて行きたいと思っています。
2	32 放課後児童クラブや児童との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がある。	個々の療育プログラムに多くの時間を費やしています。外で遊んだり、活動したりもしていますが、限られた時間と、人員ではなかなか他の子どもたちとのかわりを持つことが難しく、余裕がないのが正直な現状です。	地域交流は2か月に一度、リマーケットを事業所前のスペースを使って開催しております。受付、接客対応、売上管理等も子どもたちにまかせて実施しています。今後も継続させて行きたいと思っています。また、今後は地域の中で他業種とも連携を撮って実施できればと思っています。
3	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	上記にも書かせて頂きましたが、まだ開所して1年たっており、なかなか外部の組織との接触が少ない状況です。当デイがある程度軌道に乗って、安心して活動ができることを第一としてきました。今後の課題であると思っています。	内部の勤務時間や人員の確保を行い、今後はいくつかの協議会にも参加して横の繋がり、他のデイとの関わり合いも増やして行きたいと思っています。もう少し優先順位を挙げて外とのかわりも増やして行こうと思っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス ありんくりん町田		2026年5月30日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・小集団の活動を横目で見ると他の活動をスペースがあり、それぞれのペースでいられるので、適切だと思います。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		・チーフと、サブ数名と、管理者と、十分に見えます。	・今後、利用者が増えることを考えた場合、再検討する必要がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・教材は部屋の隅に、見やすく配置され、取り出しやすく、覚えやすいです。小集団の机も、使い方によって3パターンの配置があり、子どもたちも、適応しています。また、壁に向けることもできて、必要に応じてレイアウトを変えられます。入り口は（部屋への）段差なく、活動しやすいです。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・よく掃除がなされ、心地よく過ごせる環境です。活動に合わせて、パターンでレイアウトを変えています。 ・清掃は毎日行っている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・入り口近くにあるので入りやすく、しかも、廊下で隔てられた小部屋は、個別支援で居心地よく、こどもが使用希望を述べやすい信頼関係がスタッフとの間にあります。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		・中学生や高校生のニーズに合わせて、かつ、個々のこどもの中心的課題にも焦点を当てて、柔軟にプログラムを計画し、行った後の検証も日々話し合い、目標や計画の見直しをしています。また、細かな配慮もしています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	・学校等とも連携を必要に応じてしながら、保護者向け評価表に、こどもや保護者との話し合いや連絡帳でのやり取りも合わせて把握し、折々の見直しも行っていきます。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・職員たちの話し合いの機会も多く、それを、業務改善に向けて活用しています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3		・まだ開所して間もないので、第三者委員会が組織できていない
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・こどもが成長するようすを見ると、ニーズに応じて新たな内容も必要になるので、固定化することはありません。慣れていることは、子どもたちは楽ですので、不適応にならないように新たな挑戦には配慮しています。	・参加できない人への対応も今後は考えていく。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・支援プログラムは適切に作成、公表されています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・個々のこどもに対して保護者や学校からも資料を取り寄せ、アセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成し、折々に検討し見直しています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員たちと日々話し合い共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われています。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、日々の話し合いで、具体的には配慮もされて計画に沿った支援が行われています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		・「バイランドⅡの適応行動尺度」の質問紙法でのアセスメントもよいが、日々の観察による人間関係の持ち方やコミュニケーションのことも、職員間で共有し検討している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	・放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されています。	・本人、家族支援はできているが、地域支援、地域連携にはまだ至っていない。 ・職員間の共有理解はあるが、記録や支援会議との開催では改善の余地があると感じる。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・管理責任者を中心に、こどもの実態と希望を視野に入れて、職員たちの提案も検討されています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・固定化すると、こどもにあったものであれば、案に感じるこどももいますが、課題を考えて新たなものを計画し適応して活動できるように配慮し、事後に検証しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		・集団参加が苦手な子には、個室で支援し、徐々に大きな部屋の離れたところで横目で見られるように別の活動も機能できるように配慮しています。これも、検証しながら。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・支援開始前には、職員間で必ず、その日のプログラムについてと、こどもたちの個別の状態について確認し、行う支援の内容や役割分担を確認し共有して、チーム支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		・支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・日々の支援については、保護者への連絡帳で連絡し、写しを保管し、記録もしている。検証や改善に活用している。	・日々の記録はとれているが、検証・改善へはさらに検討していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1	・こどものようすや、支援の実態について振り返ることを定期的にし、計画の見直しや保護者・本人との話し合いによる今後の支援の策定をしている。	・昨年9月に楷書のため手探りで実践を行っている。将来に対する共有理解は職員間でできているため、一歩ずつ前に進めたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		・4つの基本活動である「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇活動」を組み合わせ、具体的な支援内容を計画している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		・将来の生活を見据えて、自己決定できる場面を増やすように計画している。	・更に選択の幅を増やせるように進めていきたい。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	・こどもの状況をよく理解したものが参画している。	・時間的な問題もあり会議に出席するのが難しい。 ・更に積極的に参加する必要がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	・個々のこどもに対して、必要に応じて、時機を逃さずに、諸関係機関と連携して支援している。	・更に積極的に参加する必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		・学校との情報共有を事務的諸連絡のほかにこども理解についても適切に行っている。学校訪問や面談もしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	2	・子どもに関わって来た諸機関とは、情報共有と相互理解に努めている。	・中高生中心なので、就学前の情報はフェイスシートやアセスメントシートで把握 ・現状では該当者がいない。 ・勤務時間が短いため、把握できていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	2	・必要に伴い、移行支援をしている。移行に伴う資料を作り、提供している。	・現状では該当者がいない。 ・勤務時間が短いため、把握できていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2		・勤務時間が短いため、把握できていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	・フリーマーケットを開催したり、地域の子どもたちにも来てもらっている。	・勤務時間が短いため、把握できていない。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2		・時間的、人力的な問題もあり協議会まで参加できていない。 ・勤務時間が短いため、把握できていない。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・個々のこどもに対して保護者や学校からも資料を取り寄せ、観察や資料に基づくアセスメントを、折々に保護者に伝え、また、保護者から情報を、連絡帳・メール・電話で共有し共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	・親子関係に課題を抱える家庭については、ペアレント・トレーニングの紹介（例えば、児童精神科医の進める自習の手立て等）をしている。また、家族向けの研修会と懇談会を年に2から3回行い、保護者の仲間つくりも進めている。	・勤務時間が短いため、把握できていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		・面談・連絡帳・メール・電話で機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		・個別支援計画と合わせて提示して理解に基づく同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・適宜、相談を受け、支援している。また、保護者会でも、そのことを伝えている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1	・父母の会づくりに向けて、懇親会を保護者会の後に行い、保護者同士も、さりげないことでも自助になっているようだ。イベントに、兄弟同士が顔を合わせることはあり、親しくもなっている家族もある。	・勤務時間が短いため、把握できていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・苦情というほどでない相談は日ごろあり、誠意をもって対処している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		・定期的に通信・予定表等を発行し、廊下や壁面に作品等を掲示し、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・個人情報の取扱いについては、写真等については事前に保護者と本人の承諾を得たり、顔が映らない工夫もしている。個別支援計画や資料の管理は鍵を使用している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮として、表情等の観察や言葉に配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	8	1	・地域のイベントには参加するなどして、地域での認知を深めるためにも交流の努力をしている。	・昨年9月に指書のため手探りで実践を行っている。将来に対する共有理解は職員間でできているため、一歩ずつ前に進めたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1	・定期的に事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応、虐待防止等についてのマニュアルは常備し、研修・訓練をしている。	・地震に関しての避難訓練は実施しているが、他の訓練はなかなかできていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	・定期的に避難等の訓練は行っている。	・訓練は実施しているが、利用者の家族を含めた訓練はまでできていない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・事前に医療的な知るべき情報は保護者を通して入手し、職員間で共有し配慮している。服薬との関係で禁忌な食物についても周知している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	・おやつや、プログラムの食育等については、食物アレルギーやその他のアレルギーについて職員には周知されて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・安全計画に基づいて研修や訓練が行われ、安全管理の中で支援している。	・研修、訓練のさらなる必要性はある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・個別支援計画とともに、安全計画も確認するようにし、連絡帳等で成長を観ながら、計画の見直しを保護者とともにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・ヒヤリハットが起きた場合には機会としてとらえて、より充実した支援を模索する。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・虐待等の防止については、定期的に研修を行うことを重ねて、適切な対応をめざしている。	

	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	・個別な事例に応じて、子どもだけに危険が迫るときには安心で安全な方法で子どもを怖がらせることなく、身体的な拘束を行う。合わせて、できれば信頼関係のある職員の穏やかで暖かな言葉かけがあるとよい。	
--	----	--	---	--	--